

2024年度マテリアリティ（重要課題）

持続可能な農業への貢献

安定的な原料てん菜の確保

●気候変動に対応したてん菜の栽培技術・品種の開発

高温下でも安定的に栽培できる技術の開発、高い耐病性やストレス耐性を有する品種の開発を行う

主な取り組み	評価指標	目標		
		2024年度	2027年度	2030年度
高糖分型耐病性品種の開発	-	優良品種登録や実用化に向けた試験を開始	新品種の栽培開始 後継品種の開発	需要に応じた新品種の普及 後継品種の開発
植物内生菌（エンドファイト）を利用した栽培技術の開発	-	耐暑性の評価に向けた栽培試験を開始	実証レベルでの試験を開始	技術普及に向けた試験栽培開始

減農薬・減肥料・スマート農業

●原料てん菜における減農薬・減肥料・スマート農業等による省人省力化

減肥料・減農薬・省人省力化に繋がるてん菜品種や栽培技術の導入

主な取り組み	評価指標	目標		
		2024年度	2027年度	2030年度
・直播導入の推進による化学肥料施肥量の削減 ・除草時間短縮に寄与する除草剤耐性品種の導入 ・病害抵抗性の高い品種の導入と抵抗性を活用した防除体系の導入 ・不耕起栽培や病虫害に対する遺伝子検診 ・センシング防除等の導入	・化学肥料使用量削減率 (2016年度比)	3%	5%	10%
	・農業使用量（費用） 削減率 (2019年度比)	1%	7% (除草剤抵抗性品種・病害抵抗性 品種を作付面積の10%に導入)	10%
	・耕起・防除・除草に 関わる投下労働時間削減率 (2019年度比)	3%	8% (除草剤抵抗性品種・病害抵抗性 品種を作付面積の10%に導入に 加え、省力技術の普及)	20%
	・栽培における炭酸ガス 直接排出量削減率 (2019年度比)	2%	4% (除草剤抵抗性品種・病害抵抗性 品種を作付面積の10%に導入に 加え、省力技術の普及)	5%

当社の研究部門により開発された農業資機材の普及により、農業の省人省力省作業化を図る

主な取り組み	評価指標	目標		
		2024年度	2027年度	2030年度
・トラクタ装着型の ひっぱりくん® の拡販 ※植付労力削減効果 白ネギ：7割削減(簡易移植機 ひっぱりくん® 比) らっきょう：6割削減(慣行植付比)	トラクタ装着型の ひっぱりくん® 販売(普及)台数	45台	80台	100台 (累計600台)
・ビート移植機を応用した野菜作(チコリ等)への 紙筒利用	-	国内試験機関との サツマイモ栽培試験開始	4,000ケース	チコリ以外も展開

てん菜を原料とした用途開発・新製品の開発

●『持続可能なてん菜産業』実現のため、CO2吸収能力の高いてん菜を原料とした用途開発・新製品の開発

てん菜からバイオリファイナリーを行う技術の研究開発

主な取り組み	評価指標	目標		
		2024年度	2027年度	2030年度
バイオリファイナリー研究	-	共同研究実施	事業化	事業化拡大

有機農業への貢献

●有機農業を視野に入れた製品群・栽培方法を開発・製造し、国内外に普及させる

有機農業に対応する商品や栽培方法の国内外への普及を図る

主な取り組み	評価指標	目標		
		2024年度	2027年度	2030年度
<ul style="list-style-type: none"> 「ニッテン液肥GB」、その他有機資材対応商品の開発・販売 「ニッテン液肥GB」の新用途開発 「ニッテン液肥GB」の販売先・販売ルートの拡大 	「ニッテン液肥GB」の国内外販売数量	38t	46t	500t
<ul style="list-style-type: none"> 米国における有機資材の基準を満たす「チェーンポット」の普及 欧州の企業との共同開発契約の下、有機対応紙筒の開発 欧州や米国での有機認証の取得 海外向けHP開設による知名度の向上 	-	麻混抄紙によるチェーンポットの普及推進 新素材を使用した有機資材の欧州や米国への供試、国内試験機関との有機栽培試験開始 アンバサダーによる有機栽培顧問契約による現地推進	9,000ケース	有機認証紙筒製品の拡販・普及促進

牛の長命連産

●牛の健康に良い飼料を開発・製造し、牛の長命連産に寄与する

牛の長命連産を可能にする飼料の開発に取り組む

主な取り組み	評価指標	目標		
		2024年度	2027年度	2030年度
<ul style="list-style-type: none"> 新製品開発 開発研究成果を公表(学会発表/特許取得等) 	製品上市数	2023年度に上市した1製品(ヘルスメルZ's)の拡売 畜産学会/獣医学会での成果発表	5年間で2製品以上	8年間で4製品以上